

高野山 空海と真言

すべてが大日如来なのだという真理

古寺巡礼 13

空海が開いた 天空の密教聖地へと
図解 早わかり空海と真言宗より引用

全ての生命いのちは 日輪太陽を中心にして、誕生し 生かされているのです。

神佛は、「知瑠恵しるめぐみと御難賛助の意志」を、人間にだけ天上から降臨こうりんして来るとき、約束して誕生させたのです。わたしたち一人ひとりがこれをさとることが真理です。

空海は、修験道、梵語マスター、キリスト教、ゾロアスター教、マニ教、イスラム教など世界中のさまざまな宗教知識を身につけ極め、両曼荼羅図の中にすべてを描き、宗教は「元ひとつ」を説きました。今、**密教**ではなく**真言**で伝えるときが来しました。

宗教者は、争う宗派の枠を超え世界恒久平和への導きをしてくださる事を望みます。

三代目 東核芒種大伝道師 加 古藤 市

高野山金剛峰寺は真言宗の寺院です。

真言宗は「南無大師遍照金剛なむだいしへんじょうこんごう」と唱えるのです

これは空海の別名

遍照金剛へんじょうこんごうを讃たたえる言葉。

南無とはサンスクリット語で

「心から信じる」や

「感謝」を表すナモーや ナマスという言葉の音訳で
仏教では「帰依」を表します。

おそらく 一僧侶に対して 帰依するというのは
真言宗のみ ではないでしょうか。

日本仏教界の

もう一人のヒーロー的存在である

日蓮を興した日蓮宗でも、

南無妙法蓮華経ですから

お経に 帰依しますという スタンスです。

ちなみに遍照金剛とは

揺るぎない太陽のような
光と智慧と訳せるでしょうが、
じつは大日如来の別名でもあるのです。
空海は

生きたまま大日如来の働きを現わしたいということですね。

古寺巡礼 十三より引用

【宗祖の魅力】

空海は、なぜ人々を惹きつけるのか？

弘法大師・空海（七七四〜八三五年）は

なぜ宗派を超えて、あまねく日本人の尊敬を受けてきたのでしょうか。
正統密教を中国（唐）から日本の仏教に新時代を築いた空海。

真言宗の宗祖として、そして、土木、建築、教育、文芸など
あらゆる分野で才能を発揮し、

民衆救済に多大な貢献を果たして来ました。

このような多面性を持った天才は、いまだ不世出ふせいしゅつです。

又、空海は、さまざまな奇跡を起こすなど多くの伝説を残し

「お大師様」として、お地藏様や観音様のような人々の信仰を集めています。
実在の人物でありながら広く民間信仰の対象にされているのは、

聖徳太子（太子信仰）と空海（大師信仰）の

二人をおいて ほかにいません。

空海が生きたのは、奈良時代末期から平安時代にかけてです。

桓武天皇（在位七八〜八〇六年）は、

七八四年に都を平安京から長岡京へ移し、

さらに七九四年に今の京都の地である平安京に移しました。

以降四〇〇年が続く平安時代の始まりです。

桓武天皇は、遷都によって悪政に癒着ゆちやくしていた奈良仏教と決別し
鎮護国家のための新しい仏教を求めました。

空海の登場したのはちょうど その頃です

呪術的な要素を持った「密教」という新しい仏教を携たずさえて

中国から帰国した空海は、見事に朝廷の期待に応えたのです。空海のごさは、インドから中国に雑多に伝わってきた密教を統一した正統密教をただ一人受け継いだことです。それも、ただ伝えただけでなく、初めてメイドインジャパンの真言密教を完成させたのです。具体的にいえば、空海以前の日本仏教は確立された教学として取り入れただけでしたが、日本の山岳信仰、中国の儒教や道教、そしてインドの言語である梵語（古代サンスクリット語）や曼荼羅（まんだらず）などを融合させて、仏教を実践的なものに転換したところに空海のごさはあるのです。

【本尊】

「大日如来」がわかれば、空海がわかる！

大日如来は密教の根本本尊とされています。

宇宙全体をつつみ込む絶対的な存在で

「真理そのもの」ということです。

大日如来の慈悲と智慧の光は

この世のすべてのものを照らしだしていると考えられています。

ちなみに、お釈迦様は大日如来が現世に現れた姿です。

空海は、大日如来の教えを理解する（さとり）の境地に至るには

自分自身が大日如来になりきることが、最も大切なことだと説きました。

しかし真言宗のお寺のなかには

大日如来を本尊としていないところもあります。

それは、一切の諸仏は大日如来が時と場所、

そして願いに応じて姿を変えて現れると考えるからです。

たとえば、病氣平癒を願う人々が集まるお寺では、薬師如来に、

学問成就なら、文殊菩薩が本尊になるというわけです。

【留学】唐で何を学んだのか？

八〇四年七月唐に向けて

ひぜんのくに

肥前国の田浦港（現在の長崎県平戸市）を出航した遣唐使船は四隻あり、

よんせき

別の船には天台宗の宗祖となる最澄さいていしょうが乗っていました。

最澄はそのときすでに

ひえいざん えんりやくじ

比叡山に延暦寺を開創しており

かんむ

桓武天皇の護持僧を務める仏教界の第一人者でした。

かんがくしょう

最澄は還学生（短期留学生）という国費派遣でしたが、

しどそう

私度僧あがりの空海は

るがくしょう

留学生（二十年以上にわたり唐にとどまって研修する留学生）で私費での派遣でした。

るがくしょう

当時の二人は、まったく交流がありませんでした。

四隻のうち無事に唐へ渡れたのは二隻のみ、

空海が乗った船と最澄が乗った船だけでした。

約一ヶ月の漂流の末、

空海が乗った船は唐の南端、福州に漂着します。

一行が唐の都である長安（現在の西安）に到着したのは

出発から半年近く後の十二月になっていました。

当時の長安は

世界有数の国際都市で、人口が百万人におよんだといわれています。

空海はここで二人のインド僧から

密教の修得に欠かせない梵語を学び、

それをわずか三ヶ月でマスターしました。

さらに、キリスト教やゾロアスター教、マニ教、イスラム教など

世界中のさまざまな宗教知識を身につけます。

空海の秀才ぶりは長安の街中に伝わりました。

【山岳信仰】

しゆげんじゆう

修験道 「聖なる山の霊力」を身につける道

山を聖なる場所（神体、神の宿る地）として

信仰することを山岳信仰といえます。

修験道は、そうした日本古来の山岳信仰が

中国の陰陽道や道教の影響を受けて発展したものです。
山林にこもって厳しい修行を行うことで

山の靈力を身につけ、さとりを得たり、靈験をえることを目的としています。

修験道の修行者は「修験者」とか「山伏」と呼ばれます。

修験道の開祖は、奈良県の吉野から熊野にかけての

大峰山系を修業の拠点とした

役小角（役行者、六三四？〜七〇一？年）といわれています。

平安時代になり、修験道は真言宗や天台宗と

強く結びついて盛んになりました。

修験道の修行には、

印契を結ぶ、九字を切る、護摩を焚くという

密教の修法が多く取り入れられています。

空海は入唐前に四国や近畿で山岳修業をしていたといわれ、

修験者たちとも関わっていたようです。

大峰山系にも湧水や鉱物にまつわる空海伝説がいくつも残されています。

現在の修験道は、役小角を開基とする金峯山寺（奈良県吉野町）

そして当山派修験道の醍醐寺三寶院（京都市伏見区）

本山派修験道の聖護院（京都市左京区）の三寺が中心寺院です。

真言宗系の修験道を「当山派修験道」といいます。

山岳修業を積極的に取り入れ、醍醐寺を開いた聖宝が八九四年、

吉野の金峯山にお堂を建て、復興に力を注ぎました。

金峯山寺の中興の祖である聖宝は

当山派修験道の祖とされ、醍醐寺の支院である三寶院が

当山派修験道の総本山となっています。

一方、天台宗系の修験道は「本山派修験道」といいます。

比叡山延暦寺五代座主で天台寺門宗の祖、円珍が

那智の滝で一千日の参籠修行をし、

円城寺（通称…三井寺、天台寺門宗総本山。滋賀県大津市）が発祥とされます。

のちに円城寺の増誉が聖護院に入り、
修験道の宗派を結成したことから

本山派修験道の祖とされ、

聖護院が本山修験宗本山となっています。

図解 早わかり空海と真言宗より引用

世界平和につながる

宗教の融合

高野山の中心である壇上伽藍に神道の神を祀り「神道と仏教の融合」を果たした弘法大師。ここに、今に続く神佛を大切にする日本人のこころの源泉があり他の宗

教を受け入れて融合するという日本文化の素晴らしさがあります。

弘法大師の御入定後もその伝統は続き鎌倉時代になると、丹生都比売神社の第三殿、

第四殿には、氣比神宮から大食都都比売大神、厳島神社から市杵島比売大神が行勝

上人により勧請されましたが、高野山の御社でも同じように氣比明神、厳島明神が勧請されました。そして、千二百年経った現在でも「神道と仏道」という枠を超え、お互いの神事と行事は密接に結びついています。

平成十六年「紀伊山地の霊場と参詣道」として丹生都比売神社と金剛峰寺を含む、紀伊山地一帯がユネスコの世界遺産に登録されましたが、その理由として「神道と仏教のたぐいまれな融合」が挙げられます。世界の人から見たら、異教同士が融合して発展していくという姿は「たぐいまれ」に映ることでしょう。

今、世界中で宗教紛争が起き、国家単位で異教徒弾圧が叫ばれている中、高野山と丹生都比売神社の関係を知るとは、世界平和に大きなメッセージを持っています。

天空の都市、高野山への道

高野山真言宗教学部長

村上保壽

古寺巡礼 十三より引用